

## ▼イオウ [外]

【重要度】 【一般製剤名】イオウ末 sulfur 【分類】寄生性皮膚疾患用剤

【単位】▼g

【常用量】1日1～2回塗布

【用法】3～10%の軟膏，懸濁液又はローションとして用いる【イオウ軟膏】5～10%イオウ濃度で白色ワセリンと混合して用いる〔流動パラフィンを適量添加してもよい〕

【特徴】皮膚表面で徐々に硫化水素やポリチオン酸となり抗菌作用を現すので、寄生性皮膚疾患に奏効する。また皮膚角化に関係あるS-H基をS-Sに変えることにより角質軟化作用を呈する。粒子が細かいほどイオウの化学変化は促進される。

【主な副作用・毒性】発疹，そう痒，皮膚炎

【更新日】20180510

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。